

予防接種について

《 ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・Hib(DPT-IPV-Hib)第1期 》

ジフテリアとは？

ジフテリア菌の飛沫感染（のど、鼻）で起こります。無症状の保菌者から感染することもあります。

症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などです。窒息死や菌からの毒素で心筋障害や神経麻痺を起こすこともあります。

百日せきとは？

百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通のかぜのような症状からせきがひどくなり、笛を吹くような音が出ます。乳幼児はせきで呼吸ができず、唇が青くなったり、けいれんが起こることもあります。肺炎や脳症などの合併症を起こしたり、乳児では死亡することもあります。

破傷風とは？

土の中にいる破傷風菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体内で増えるとその毒素によって口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

ポリオとは？

ポリオ（急性灰白髄炎）は「小児まひ」と呼ばれます。口の中から入ったポリオウイルスが咽頭や小腸の細胞で増え、便の中に排出されて他の人に感染していきます。感染者のほとんどは無症状ですが、約1000～2000人に1人の割合で手足の麻痺があらわれます。一部の人には、その麻痺は一生残ります。

Hib(インフルエンザ菌b型)とは？

Hib(インフルエンザ菌b型)は乳幼児の髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症の原因となっています。Hibによる髄膜炎の発症者は、平成22年以前は年間約400人で、生後4か月から1歳までの乳児が過半数を占めていました。また、約11%が死亡や後遺症を残すなど予後不良と推定されていました。

ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ Hib混合(DPT-IPV-Hib)ワクチン

第1期として20日以上（標準として20日～56日）の間隔をあけて初回3回接種後、6か月以上（標準として1年～1年半）の間隔をあけて追加を1回接種します。

第2期として小学校6年生時にDT（ジフテリア・破傷風）二種混合ワクチンを1回接種します。

DPT-IPV-Hib ワクチンの副反応

接種部位の発赤、しこり、はれ、発熱が主な副反応です。しこりは少しずつ小さくなります。

重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師にご相談ください。

〈 予防接種を受けに行く前に 〉

◇ 注意しなければいけないこと

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。安全に予防接種が受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- ①当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わったところのないことを確認するようにしましょう。
- ②説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- ③母子健康手帳は必ず持って行きましょう。
- ④予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

◇ 予防接種を受けることができないお子さん

- ①明らかに発熱（通常 37.5℃以上）をしているお子さん
- ②重篤な急性疾患にかかっている明らかなお子さん
- ③その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー（非常に強いアレルギー反応）を起こしたことがあることが明らかなお子さん
- ④外傷等によりケロイドが認められるお子さん（BCG）
- ⑤母子感染予防で、出生後に B 型肝炎ワクチンを接種したお子さん（B 型肝炎）
- ⑥腸重積症の既往歴があることが明らかなお子さん、先天性消化管障害を有するお子さん及び重症複合免疫不全症の所見が認められるお子さん（ロタ）
- ⑦その他医師が不適当な状態と判断した場合

◇ 予防接種を受ける際に注意を要するお子さん

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ②予防接種で、接種後 2 日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる症状がみられたお子さん
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがあるお子さん
- ④過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全の人がいるお子さん
- ⑤ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあり、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん
- ⑥過去に結核患者との長期の接触があるお子さん及び結核にかかっている疑いのあるお子さん（BCG）
- ⑦活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害のあるお子さん（ロタウイルスの場合）

〈 接種後の注意 〉

◇ 一般的注意事項

- ①予防接種を受けたあと 30 分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- ②接種後、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④当日は、はげしい運動はさけましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

◇ 副反応がおこった場合

予防接種を受けたあと、まれに重い副反応のおこることがあります。接種局所のひどいはれ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けて下さい。お子さんの症状が予防接種後副反応疑い報告基準に該当する場合は、医師から（独）医薬品医療機器総合機構へ報告が行われます。また、予防接種とは関係なく、接種と同じ時期にほかの感染症などがたまたま重なって何らかの症状が出ることもあります（紛れ込み反応）。

◇ 予防接種による健康被害救済制度について

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。
- 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
- ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのか、因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

【問合せ先】 金沢市健康政策課

金沢市広坂 1 丁目 1 番 1 号 ☎ 076-220-2701 FAX 076-220-2231

予防接種券の再発行などは、以下の窓口でもできます。

駅西福祉健康センター ☎076-234-5103
泉野福祉健康センター ☎076-242-1131
元町福祉健康センター ☎076-251-0200